

# 希望を持って生きられる「この国のあり方」について

## 第1章 時代の峠で「この国」に漂う不安感、閉塞感

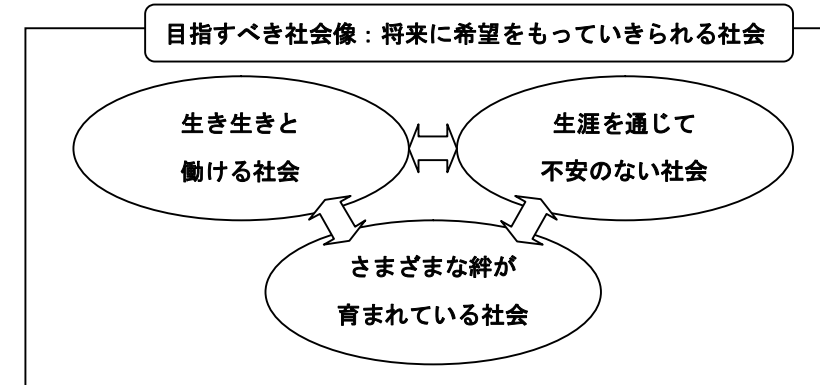
- 1 経済面から見た不安感、閉塞感**  
(産業構造の変化)  
(雇用形態の変化、貧困や格差の拡大)
- 2 社会面から見た不安感、閉塞感**  
(福祉国家の行き詰まり)  
(ライフステージごとのセーフティネットの弱体化)  
(家族や地域の絆の希薄化)
- 3 政治面から見た不安感、閉塞感**  
(既存の制度等に対する不信感)  
(「この国」の未来が展望できない閉塞感)
- 4 峠の向こうの「この国のあり方」**  
(峠の中の時代と国民の選択)  
(「この国のかたち」ではなく「この国のあり方」)

## 第2章 「この国」の福祉政策と雇用政策

- 1 福祉国家の3つの類型**
- 2 政府の大きさと経済的なパフォーマンス**
- 3 国際比較による「この国」の生活保障**  
(現物給付と現金給付)  
(政策分野別の社会支出の対国民所得比)
- 4 国際比較による「この国」の雇用保障**
- 5 国際比較による「この国」の生活保障と雇用保障の組合せ**
- 6 「この国」の雇用レジームと福祉レジームの崩壊と再生**  
(「大きな雇用レジーム」とその崩壊)  
(「小さな福祉レジーム」とその機能不全)  
(「この国」の政府の大きさ)  
(日本型モデルの模索)

## 第3章 希望を持って生きられる「この国」のあり方

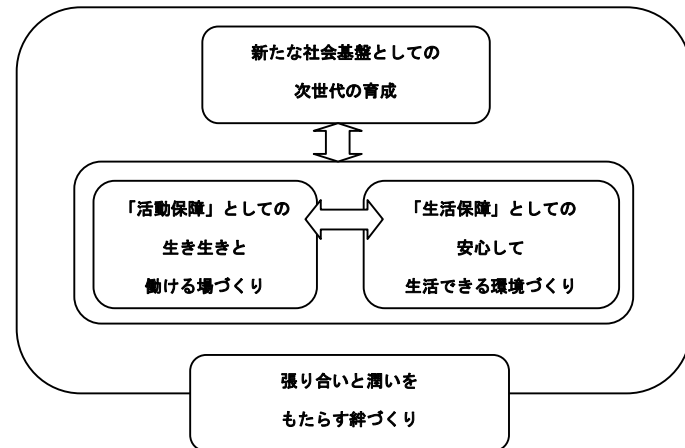
### 1 将来に希望を持って生きられる社会を目指して



- 2 生き生きと働ける社会**  
(産業が元気で雇用が充実した社会)  
(能力の発揮と多様な職業選択が可能な社会)  
(再挑戦ができる社会)
- 3 生涯を通じて不安のない社会**  
(自立への道が開かれた社会)  
(安心して子どもを産み育てられる社会)  
(学びと教育に安心できる社会)  
(医療と健康に安心できる社会)  
(老後に安心できる社会)
- 4 さまざまな絆が育まれている社会**  
(家族や地域の絆が再生されている社会)  
(多様な主体が参画・連携している社会)  
(個性豊かな地域アイデンティティが継承・創造されている社会)  
(多様な交流による新たな価値の創造)

## 第4章 「この国」を実現する政策の方向

### 1 希望を持って生きられる社会を実現する政策の方向



### 2 新たな社会基盤としての次世代の育成

(子どもの健やかな成長を社会全体で支える)  
(個の能力に応じたきめ細かな教育サービスの提供)

### 3 「活動保障」としての生き生きと働ける場づくり

(新しい時代にふさわしい産業政策の展開)  
(生き生きと働ける条件づくり)  
(新たな視点の公共事業)

### 4 「生活保障」としての安心して生活できる環境づくり

(自立 ～働く意欲がありながら労働市場から離れている場合～)  
(健康・医療 ～疾病等で労働市場から離れた場合～)  
(老後 ～定年等で労働市場から離れた場合～)  
(環境 ～持続可能な循環型社会を次世代に継承～)

### 5 張り合いや潤いをもたらす絆づくり

(家族や地域の絆の再生)  
(多様な主体の参画と連携 ～年齢、性別、職業、地縁を超えて～)  
(多様な交流による新たな価値の創造)

## 第5章 「この国」の実現する政府のあり方

### 1 公共サービスから見た政府のあり方

(現金給付と現物給付)  
(給付水準とナショナル・ミニマム)  
(普遍主義と選別主義)  
(産業政策の展開)  
(インフラ整備)

### 2 財政から見た政府のあり方

(国民負担のあり方)  
(税制の改革)  
(中央政府と地方政府の役割分担に応じた税源配分)  
(財政調整制度、財源保障制度の確立)  
(財政赤字)

### 3 信頼性から見た政府のあり方

(負担の正当性)  
(見返りの実感)  
(政治への信頼)